

# 松本市の景気動向

## — 中小企業景気動向基本調査 —

### 【令和7年1月】

#### ■調査概要（データ対象期間：令和7年1月1日～1月31日）

○調査期間：令和7年1月31日～令和7年2月20日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査及び全会員対象のWeb景気動向調査アンケート

○回収状況：建設業17企業、製造業21企業、卸売業20企業、小売業31企業  
飲食業18企業、サービス業52企業（運輸、不動産仲介業を含む）  
<合計159企業>

○調査項目：1月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価  
状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

# 概況

## ○判断の基準

	好調	やや好調	横ばい	やや低調	低調
DI値	DI ≥ 20	20 > DI > 5	5 ≥ DI ≥ ▲5	▲5 > DI > ▲20	▲20 ≥ DI

## 1. 業況判断

- 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)はやや低調  
前月(やや低調)から悪化(▲13.1→▲13.2)
- 全産業合計の水準DIは低調  
前月(やや低調)から悪化(▲14.3→▲23.9)

	建設業	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業
業況DI	低調	やや低調	横ばい	やや低調	低調	やや低調
水準DI	低調	低調	やや低調	横ばい	低調	低調

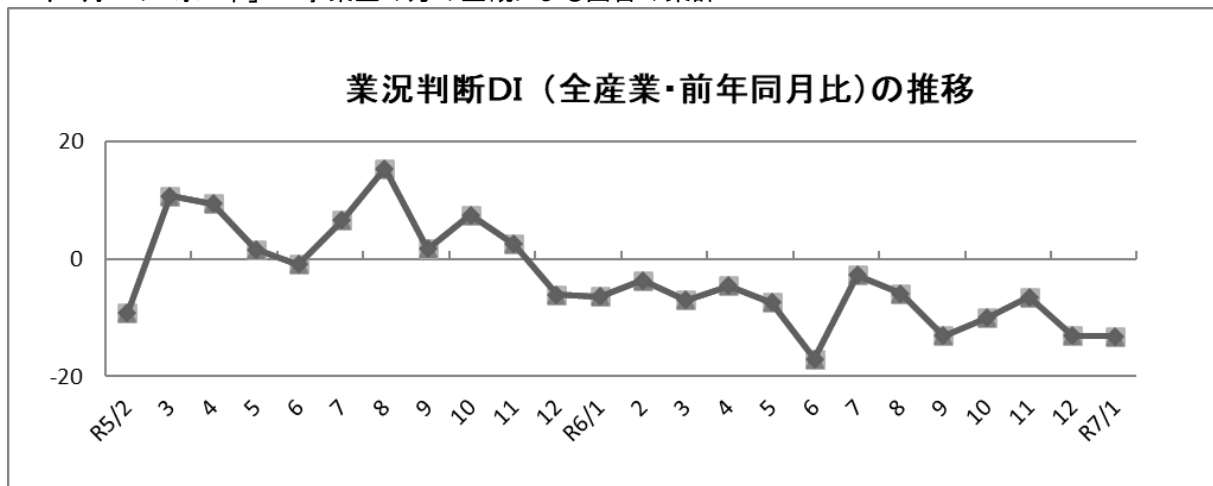
	業況[前年同月比]					今月の水準				
	好転%	不変%	悪化%	DI	前月との差	良い%	普通%	悪い%	DI	前月との差
合計	17.6 (16.2)	51.6 (54.5)	30.8 (29.3)	▲13.2 (▲13.1)	▲0.1	13.2 (15.0)	49.7 (55.7)	37.1 (29.3)	▲23.9 (▲14.3)	▲9.6
建設業	0.0 (18.2)	58.8 (50.0)	41.2 (31.8)	▲41.2 (▲13.6)	▲27.6	0.0 (13.6)	64.7 (54.6)	35.3 (31.8)	▲35.3 (▲18.2)	▲17.1
製造業	28.6 (21.4)	33.3 (57.2)	38.1 (21.4)	▲9.5 (0.0)	▲9.5	19.0 (21.4)	38.1 (50.0)	42.9 (28.6)	▲23.9 (▲7.2)	▲16.7
卸売業	30.0 (22.7)	45.0 (40.9)	25.0 (36.4)	5.0 (▲13.7)	18.7	20.0 (22.7)	45.0 (45.5)	35.0 (31.8)	▲15.0 (▲9.1)	▲5.9
小売業	19.4 (24.0)	51.6 (56.0)	29.0 (20.0)	▲9.6 (4.0)	▲13.6	22.6 (20.0)	51.6 (68.0)	25.8 (12.0)	▲3.2 (8.0)	▲11.2
飲食業	16.7 (5.9)	27.7 (52.9)	55.6 (41.2)	▲38.9 (▲35.3)	▲3.6	11.1 (17.6)	16.7 (53.0)	72.2 (29.4)	▲61.1 (▲11.8)	▲49.3
サービス業	13.5 (9.4)	67.3 (60.4)	19.2 (30.2)	▲5.7 (▲20.8)	15.1	7.7 (5.7)	61.5 (58.5)	30.8 (35.8)	▲23.1 (▲30.1)	7.0

※緑色の部分が前年同月と比較し増加した業種となります。

( )内は前月データ

「業況[前年同月比]」…前年同月の業況との比較による回答の集計

「今月の水準」…事業主の方の主観による回答の集計



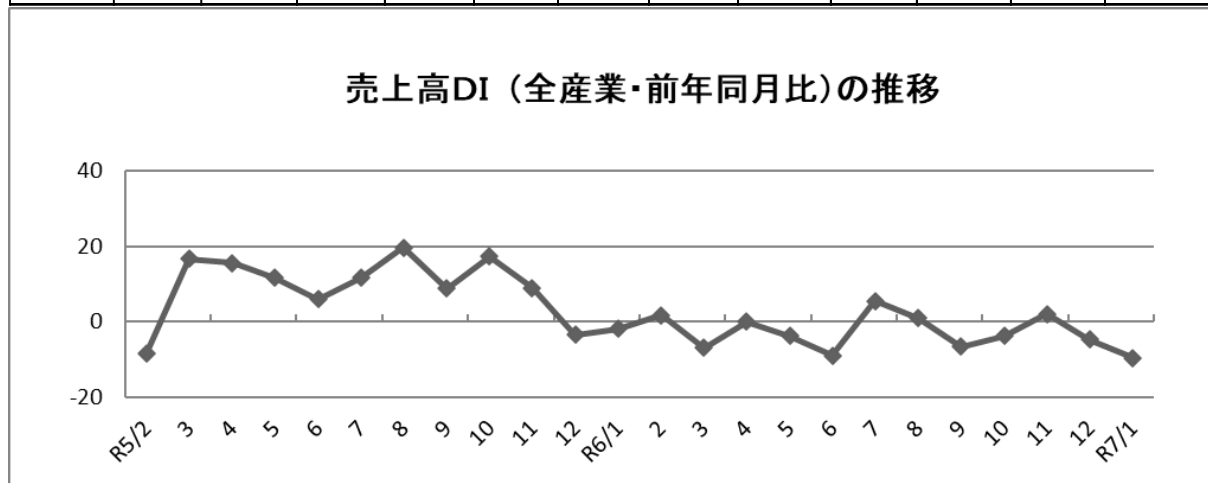
## 2. 売上高

- 全産業合計の売上高DIは、やや低調。  
前月(横ばい)から悪化(▲4.7→▲9.5)

業種ごとの売上高DI(前年同月比ベース)					
建設業	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業
低調	やや低調	横ばい	横ばい	低調	やや低調

### 【対前年同月比全産業合計売上高DIの推移】

R6年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月
▲1.8	1.8	▲6.9	0.0	▲3.7	▲8.9	5.5	1.0	▲6.5	▲3.7	2.1	▲4.7	▲9.5



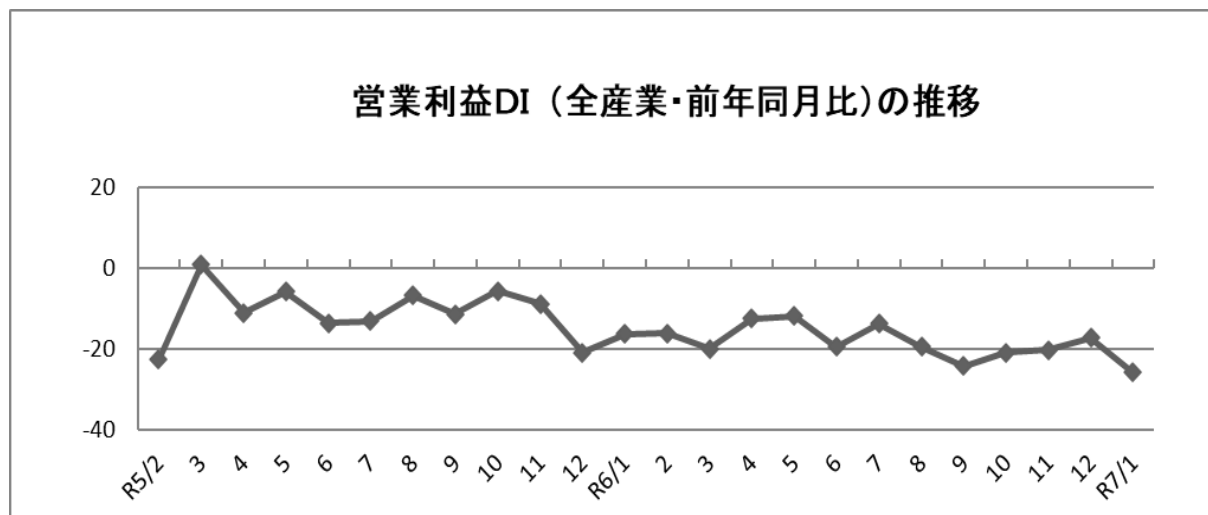
## 3. 営業利益

- 全産業合計の営業利益DIは低調。  
前月(やや低調)から悪化(▲17.3→▲25.8)

業種ごとの営業利益DI(前年同月比ベース)					
建設業	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業
低調	やや低調	やや低調	低調	低調	やや低調

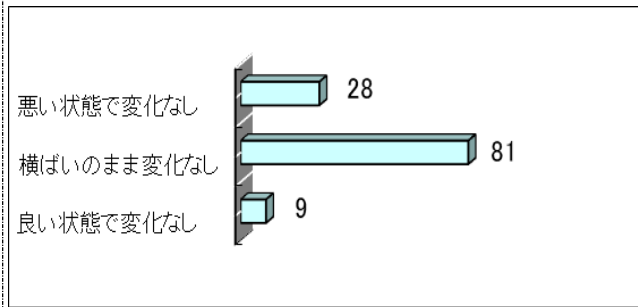
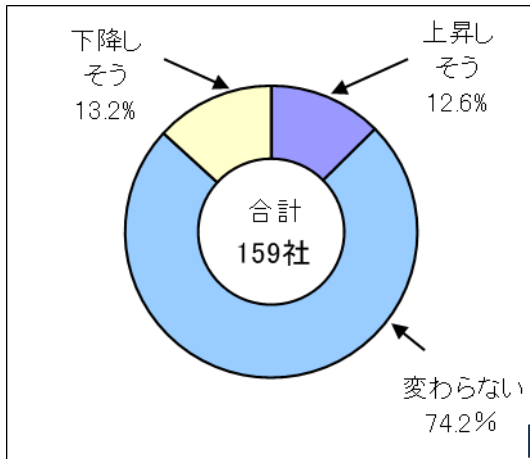
### 【対前年同月比全産業営業利益DIの推移】

R6年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月
▲16.4	▲16.2	▲20.0	▲12.6	▲11.9	▲19.6	▲13.9	▲19.6	▲24.3	▲21.0	▲20.3	▲17.3	▲25.8



◆ 『変わらない』の内訳 ◆

◇ 向こう3ヵ月の見通し ◇



令和7年2月～4月の見通しDIは、

「上昇しそう」が増え(7.8%→12.6%)、「下降しそう」は減った(19.8%→13.2%)

業種ごとの見通し DI					
建設業	製造業	卸売業	小売業	飲食業	サービス業
やや低調	横ばい	横ばい	横ばい	やや好調	横ばい

今後3ヶ月の見通しに対する各業種のコメント

【建設業】

「上昇しそう」 1月の補正分が発注されているため  
1月の受注量が良かったため

「下降しそう」 現在長野県内、全国的に建築物件数が激減しているため

【製造業】

「上昇しそう」 繁忙期にて売上の回復が見込めるため  
引き合いがあるため

「下降しそう」 受注が減少しているため

【卸売業】

「上昇しそう」 宴会や観光の需要が増加しているため  
インバウンドが増加し販売が好調のため

「下降しそう」 食費や光熱費など必需品の値上げで買い控えになるため  
原材料の値上げが全く止まらないため

【小売業】

「上昇しそう」 気温が上がれば回復するため  
移転しリニューアルオープンするため  
売上アップの研修を行うため

「変わらない」 物価高で消費が低迷しているため

「下降しそう」 寒さのため  
2025年問題の影響が出るのではないかと身構えているため  
家計負担軽減による新聞離れのため  
松本PARCOの閉店に伴う市内流入人口の減少のため  
仕入価格の上昇のため

【飲食業】

「上昇しそう」 送別会シーズンのため  
3月以降に期待するため

「下降しそう」

知名度が上がり始めたため  
客数が増加傾向にあるため  
営業時間を短くしたため  
原材料も光熱費も高いため

【サービス業】

「上昇しそう」

気温が上昇すれば旅行客が増えるため  
季節的要因として需要が上向き見込みのため

「変わらない」

仕掛中のプロジェクトはピークであり回収は見込めるも引き合いがあるため  
職業訓練受講者数の低迷のため

「下降しそう」

閑散期のため  
取り扱っている商流、物流の減少と燃料等の仕入価格の上昇が継続するため  
転勤したり亡くなられるお客様が多いため

# 業種別景況

## 1. 建設業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
<b>低調</b>	<b>低調</b>	<b>やや低調</b>	<b>低調</b>	<b>やや低調</b>
前月比 26.2減少	前月比 10.7減少	前月比 17.6減少	前月比 13.9減少	前月比 1.3減少

【項目別DIの推移】

	R6年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月
売上高	▲11.7	▲13.3	▲22.2	▲21.0	▲25.0	▲38.8	▲25.0	▲29.4	▲27.7	▲28.6	▲10.5	▲9.1	▲35.3
受注量	▲11.7	▲26.6	▲16.6	▲21.1	▲30.0	▲27.7	▲25.0	▲41.2	▲27.7	▲42.9	▲36.8	▲36.4	▲47.1
受注単価	5.9	0.0	0.0	0.0	5.0	▲5.6	▲6.2	▲17.6	▲5.5	▲14.3	▲31.5	0.0	▲17.6
営業利益	▲23.5	▲13.3	▲22.2	▲21.0	▲30.0	▲50.0	▲43.8	▲41.2	▲33.3	▲35.8	▲31.5	▲27.3	▲41.2
見通し	▲5.9	▲13.3	▲11.1	0.0	15.0	5.5	▲12.5	▲11.8	0.0	▲14.3	▲26.3	▲4.6	▲5.9

### <経営者の目・見方・etc>

鉄工

- ・色々な人、方面に話を聞いても非常に悲観的な様子である。政府による”時短”、”賃上げ”政策の働きかけも我々の業界には全く効果は感じられない。
- ・中信地区同業企業の建築鉄骨製作物件数が少なく、遊休空き工場が多数見受けられる。特に下請けで仕事を受注している企業で顕著である。

電気工事

- ・太さにかかわらず電線の納期が今後かかるのではないだろうかという懸念がある。

### (コメント)

・**地域特性と状況**：公共工事への依存度が高い企業が多く、補正予算による発注の増加には期待が集まる一方、民間の建築需要が低下しているため、工場の稼働率が下がっている企業も見られる。受注単価の低下が続き、利益確保が難しくなっている点も大きな課題だ。また、建築資材の納期遅れや価格高騰が続くことで、工期の遅れやコスト増加の懸念も広がっている。

・**総括コメント**：松本市の建設業は、全国的な建築不況の波を受け、受注量の減少とコスト上昇の二重苦に直面している。公共工事に期待が寄せられるものの、それだけではカバーしきれない状況であり、新たな市場開拓や業態転換を模索する動きが求められる。

## 2. 製造業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
やや低調	やや低調	横ばい	やや低調	横ばい
前月比 13.2減少	前月比 9.6減少	前月比 16.6減少	前月比 19.1減少	前月比 変化なし

### 【項目別DIの推移】

	R6年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月
売上高	11.8	6.2	▲ 31.5	▲ 5.9	5.0	▲ 22.2	38.9	▲ 18.7	▲ 13.4	10.5	0.0	3.6	▲ 9.6
受注量	0.0	0.0	▲ 31.6	▲ 23.5	▲ 5.0	▲ 11.1	27.8	▲ 25.0	0.0	▲ 15.7	▲ 8.7	0.0	▲ 9.6
受注単価	23.5	12.5	▲ 10.5	11.7	15.0	11.1	33.3	6.3	13.3	31.5	4.3	21.4	4.8
営業利益	▲ 5.9	▲ 25.0	▲ 57.9	▲ 35.3	0.0	▲ 16.6	5.5	▲ 18.7	▲ 13.4	▲ 15.7	▲ 30.5	0.0	▲ 19.1
見通し	23.5	6.3	0.0	0.0	0.0	11.1	▲ 16.7	0.0	13.3	▲ 21.1	▲ 4.4	0.0	0.0

### <経営者の目・見方・etc>

民芸木工家具

・価格転嫁はできているがその幅が狭くなっている。1月から2月は消費も冷え込み厳しい状態である。市内の家具業界の動きを詳しく知りたい。

金属塗装

・当社の大口得意先が事業の縮小、売却等の動きがあり、最終どうなるのか心配である。

エネルギー

・工業用地の確保は充分できているか、不足しているか。

農機具製造

・石油小売価格の談合、松本平はどうなのか？

### (コメント)

・**地域特性と状況**：大口取引先の事業縮小や設備投資の停滞により、受注量が減少している企業が多い。価格転嫁の難しさから、仕入れコストの上昇を吸収しきれず、利益率の低下が続いている。設備投資への慎重な姿勢が見られる一方、新たな販路拡大や付加価値の高い製品開発を進める企業も出てきている。

・**総括コメント**：松本市の製造業は、既存の市場だけでは成長が難しくなっており、新たな技術開発や販路開拓が急務となっている。地域内の企業間連携や、デジタル技術を活用した生産性向上が今後の成長のカギを握る。

### 3. 卸売業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
横ばい	やや低調	好調	やや低調	横ばい
前月比 18.7増加	前月比 1.4減少	前月比 39.1増加	前月比 3.2増加	前月比 27.8増加

【項目別DIの推移】

	R6年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月
売上高	▲15.4	0.0	▲7.7	▲15.4	▲6.7	▲38.5	23.1	0.0	▲7.7	9.1	21.4	▲13.7	5.0
販売客数	▲7.7	▲7.7	0.0	▲15.4	6.6	▲30.8	15.4	0.0	▲15.4	0.0	▲7.2	▲13.6	▲15.0
販売客単価	▲7.7	0.0	0.0	0.0	20.0	▲7.7	15.4	▲10.0	▲15.4	▲9.1	21.4	▲9.1	30.0
営業利益	▲23.1	▲23.1	▲7.7	▲7.7	0.0	▲46.2	▲15.4	▲40.0	▲46.1	9.1	0.0	▲18.2	▲15.0
見通し	▲23.1	0.0	▲7.7	15.4	0.0	▲30.8	▲23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	▲22.8	5.0

#### <経営者の目・見方・etc>

青果卸小売業	・野菜の高騰はまだまだ続きそうである。
自転車	・メーカー出荷では11月から1月の売上において前年割れが多い。 ・県内外とも年末年始の販売用に多くの発注があり好調である。為替の動きも気になるが、輸入業者としては円高がありがたい。
土産品	・海外からの観光客が増え、販売も好調である。旧正月も始まったので期待したい。
金属製品	・引き続き建築、建機、産機は低調に推移しており、物量の回復の兆しは感じていない。価格は横ばいではあるが、各メーカーや流通も弱気な傾向である。年度末まではこのような傾向であり、先々に不安を感じている。
木材・建材 生地	・各社の設備投資計画について、その設備内容とともにお伺いしたい。
建設資材	・輸入商品があるため、外国為替の状況が気になる。
総合商社	・トランプ新政権発足に伴う関税の引上げへの懸念。長野県内企業への影響はどうか。

#### (コメント)

・**地域特性と状況**：原材料価格や物流コストの上昇により、仕入れ価格が上昇しているが、販売価格に転嫁しきれず利益率が圧迫されている。建築資材の卸売業では、建設市場の低迷が影響し、回復の兆しは見えていない。外国人観光客向けの商品販売が堅調な一方、生活必需品の売れ行きは鈍化しており、二極化が進んでいる。

・**総括コメント**：松本市の卸売業は、観光需要と生活必需品市場の二極化が進んでおり、特に輸入業者は為替リスクの影響を受けやすい。コスト上昇に対応しながら、利益を確保できる事業戦略が求められる。



## 4. 小売業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
横ばい	横ばい	やや好調	低調	横ばい
前月比 23.2減少	前月比 12.7増加	前月比 6.5増加	前月比 14.6減少	前月比 8.8増加

【項目別DIの推移】

	R6年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月
売上高	0.0	9.1	19.1	6.6	▲16.0	18.8	▲6.2	6.6	5.0	▲21.0	18.2	20.0	▲3.2
販売客数	5.5	9.1	0.0	▲16.0	6.2	▲18.7	▲6.6	▲15.0	▲42.1	0.0	▲16.0	▲3.3	
販売客単価	▲5.6	9.1	19.1	20.0	▲12.0	12.5	▲6.2	▲6.6	10.0	▲10.5	4.6	0.0	6.5
営業利益	▲22.2	▲18.2	▲19.0	6.7	▲24.0	0.0	▲31.2	0.0	▲25.0	▲36.8	▲18.2	▲8.0	▲22.6
見通し	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	▲12.5	▲13.3	▲10.0	▲26.3	▲13.7	▲12.0	▲3.2

### <経営者の目・見方・etc>

洋菓子店

・バレンタインなどのイベントではデパートは盛り上がっているらしく高いものから売れるらしい。反面個人店では落ち着いているという話を聞く。ここ数年イベントの在り方も変わっている気がする。

・物価高で個人店には客足が遠くなっている。材料の高騰も続き利益が上がらなくなっている。

パン

・物価上昇のイメージがあるためか、来店回数が落ちている感がある。次に繋がる営業に苦心している。

印章

・年末年始が九連休となり、観光客や帰省の方が例年より多かったと思われる。企業から発注される事務用ゴム印類の注文が更に減ってきている。地銀二行の合併まで1年をきった。行名変更に伴う需要に期待したい。

印章・刃物研ぎ  
ガラスサッシ

・観光客がめっきり減り、気候情報も芳しくない。

・原材料の値上げと運賃の値上げが経営を圧迫している。なかなか転嫁できないのが実情である。ガソリン価格の高騰も苦慮しているところである。低所得者援護もいいが、零細企業にも手を差し伸べてほしいものだ。

食料品

・地域経済の肌感としては、小売・製造・建設業とも若干下降気味の印象である。

生鮮食品

・アジア系の観光客が多い。閉店する店舗があるが、お客様から「困るよ。」と仰っていただいた。45年にわたり感謝します。

文具

・大型店がなくなり中信地区の小売りに対して非常に厳しい状況である。

総合スーパー

・天候、海外政治の動向が気になる。

宝石

・PARCOがなくなったあとの利用がどうなるか。

### (コメント)

・**地域特性と状況**:松本市の小売業は、個人商店と大型商業施設が混在し、観光客向けの販売も一定の割合を占めている。しかし、松本 PARCO の閉店により、中心市街地の流入人口が減少し、商圈の縮小が危惧される。物価上昇の影響で、消費者の購買意欲が低下し、高価格帯

の商品が売れにくくなっている。観光客向けの商品販売は一定の需要があるものの、地元住民向けの店舗では客足の減少が続いている。EC（電子商取引）など、新たな販売方法を模索する動きが出てきている。

・**総括コメント**：松本市の小売業は、消費行動の変化に対応する必要があり、実店舗だけに頼らない新たな販売戦略の構築が求められる。

## 5. 飲食業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
<b>低調</b>	<b>低調</b>	<b>横ばい</b>	<b>低調</b>	<b>やや好調</b>
前月比 16.3減少	前月比 1.3増加	前月比 変化なし	前月比 37.6減少	前月比 23.1増加

### 【項目別DIの推移】

	R6年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月
売上高	7.7	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	33.3	16.7	45.4	0.0	7.7	26.7	▲ 5.9	▲ 22.2
販売客数	7.7	8.4	▲ 25.0	0.0	▲ 6.2	16.7	25.0	45.4	▲ 11.1	7.7	13.3	▲ 23.5	▲ 22.2
販売客単価	0.0	0.0	25.0	7.7	6.3	16.6	16.7	18.2	22.2	7.7	6.7	0.0	0.0
営業利益	▲ 15.4	▲ 16.7	▲ 41.6	▲ 15.4	▲ 37.5	▲ 8.3	▲ 8.4	0.0	▲ 22.2	▲ 53.8	▲ 13.3	▲ 23.5	▲ 61.1
見通し	7.7	33.3	16.7	7.7	25.0	25.0	16.7	9.1	11.1	0.0	33.3	▲ 17.6	5.5

### <経営者の目・見方・etc>

冷凍生そば販売業	・県外に向けての告知が不足しているため、宣伝などの工夫、SNSの活用 のアドバイスがあったら指導してほしい。
郷土料理	・海外からの観光客は増えているが、全体の客数は変わらず、国内のお 客様は減っている。原材料の価格が高騰し、特に米、たまご、鶏肉あた りが高く利益が出ない。キャッシュレスの支払いが増え、手元に現金が 残らない。
食堂	・1月前半は新年会、会食等の予約が昨年度より増えたが、後半になると 低温やインフルエンザなどで客足は落ちた。
寿司	・例年のごとく正月だけは忙しく過ぎた。しかし、中旬以降は暇な日が目 立った。これから2月に向かって不景気で静かな時期となる。
中華料理	・松本城プロジェクションマッピング、あめ市、氷彫フェスに多くの人出が あり、街が賑やかかく当店でも恩恵をいただけた。今年は10～20人程の 新年会が週末を中心に多くあった。
居酒屋	・冬の町の動きが悪すぎる。全体の人の動きに働きかける政策が欲し い。
イタリア料理	・材料代、水道光熱費の値上がりに価格転嫁が追いつかない状況であ る。

### (コメント)

・**地域特性と状況**:松本市の飲食業は、観光客の動向に大きく左右され、地元住民の利用と観光客の需要のバランスが業績に影響を与える。近年、外国人観光客の増加がみられるが、国内客の減少傾向が続いている。原材料価格や光熱費の高騰により、利益率の低下が深刻な課題となっている。営業時間の短縮やメニューの見直しなど、コスト削減の工夫が求められている。

・**総括コメント**:松本市の飲食業は、コスト上昇への対応が不可欠であり、価格設定やサービスの付加価値向上が今後の経営の鍵となる。

## 6. サービス業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヵ月の見通し
<b>やや低調</b>	<b>やや低調</b>	<b>やや低調</b>	<b>やや低調</b>	<b>横ばい</b>
前月比 9.3増加	前月比 3.5増加	前月比 5.8減少	前月比 7.3増加	前月比 13.2増加

【項目別DIの推移】

	R6年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年1月
売上高	▲ 3.1	3.0	9.4	17.7	10.5	▲ 2.9	▲ 3.0	9.1	0.0	0.0	▲ 13.3	▲ 15.1	▲ 5.8
販売客数	▲ 3.2	9.1	12.5	14.7	10.5	0.0	▲ 6.0	▲ 3.0	▲ 6.3	▲ 2.9	▲ 13.3	▲ 17.0	▲ 13.5
販売客単価	0.0	6.0	18.8	17.6	23.6	5.7	24.3	21.2	3.1	14.7	2.3	0.0	▲ 5.8
営業利益	▲ 12.5	▲ 9.1	6.3	▲ 5.9	5.3	▲ 8.6	▲ 3.0	▲ 18.2	▲ 15.6	▲ 5.9	▲ 20.0	▲ 24.6	▲ 17.3
見通し	▲ 6.3	9.1	9.3	3.0	13.2	8.5	9.1	0.0	6.3	▲ 8.9	▲ 4.5	▲ 15.1	▲ 1.9

### <経営者の目・見方・etc>

ソフトウェア

・環境や技術の変化が早いため、一部の案件については長期による関与が見込める。一方で客先常駐が主体だとスキルアップが見込めないため課題である。

旅館

・脱酸素の思いはあるが代替装置は高額であり、現在使用している燃料の高騰で多少売り上げが伸びても経営業況は厳しい。原材料、経費の高騰がほぼ毎月あるので、年1回くらいの価格転嫁では追いつかない。

温泉旅館

・人手不足が解消されないため、客室の販売制限が続いている。春までに目処が立たないとかなり深刻な問題に発展する。3月までにデパートやスーパーなどの閉店が相次ぐがその人手をこちらに回して欲しい。行政のほうでパイプ役を担って欲しい。このままだと、業績の良い店や将来性のある店が人手不足で倒産していき、観光都市松本にとっては良くない状態になっていくと思われる。今こそ、行政が先頭に立ち観光都市の存続と発展の為に何とかしてもらいたい。

ホテル

・月初の動きはあまり良くなかったが、尻上がりに売上が伸びた。

理容

・人口減がこれから響くと思う。

美容

・1月は成人式などもあり前半は忙しかったが、後半から2月にかけて毎年静かな時期になる。3月は卒業式などがあるので準備したい。

ペットフード

・来店数、売上ともに前年並みであった。経費などの高騰により利益が圧迫されている。今後メニューの付加価値をつけながら値上げが必要である。

ホームクリーニング・リネサ  
プライ業

・経営状況は比較的順調に推移しているが、長野市で発生したガソリン価格調整をめぐる疑惑には注視していきたい。

スポーツクラブ

・燃料費、水道光熱費の負担が大きい。

機械設計

・来期のテーマが出てきている。あまり期待できそうもない。

不動産

・価格転嫁について、土地の売買のため簡単には価格転嫁できない。

教育

・習い事も世の中の景気に影響されるが、緩やかな減少が続いている。

会計事務所

・地域経済の肌感としては、小売・製造・建設業とも若干下降気味の印象である。

## (コメント)

・**地域特性と状況**: ホテル・旅館業では、客室の販売制限が続いており、人手不足の解消が急務となっている。燃料費や水道光熱費の高騰も利益を圧迫しており、業績の二極化が進んでいる。

・**総括コメント**: 松本市のサービス業は、観光需要の回復と人手不足の解決が重要なポイントとなっており、価格転嫁や労働環境の改善が求められる。

## (総括コメント)

松本市の景気は、業種ごとに異なる動きを見せているが、共通して**物価上昇と人手不足が経営の大きな課題**となっている。観光業の回復が一部の業種を支えているものの、消費者の購買意欲の低下や、地域商業の縮小が懸念される。今後の経済回復には、地域資源の活用、新たな販路開拓、デジタル技術の導入が不可欠となるだろう。

## 7. 任意調査

(調査目的)

物価高騰や人員不足など、松本市内の企業を取り巻く環境は厳しい状況です。

価格転嫁がどこまで進んでいるのかを調査し、今後の施策の参考にするための調査となります。

問. 原材料、経費の高騰が続いていますが、御社では値上げ及び価格転嫁はできていますか。

- ① できている ・1割～2割 ・3割～4割 ・5割～6割 ・7割～8割 ・9割以上
- ② できていない

(回答数 159 社)

